

好  
書  
園  
藏



~13  
3938  
6



門へ  
號 3938  
卷 6

門  
號  
卷

花  
丸  
見  
む

冊 八  
號 九  
函 二

節用

清

假名文章娘節用後編下之巻

江戸 曲山人補綴

第六回

小こを乳母や下女と対しぬ。お燈の例みつくねんと  
いしり 竹やりお案の。教うあるが合五部三小三  
何とてのわろのどるせ森ね又お病でもかこつ  
小こを乳母や下女と対しぬ。お燈の例みつくねんと  
いしり 竹やりお案の。教うあるが合五部三小三  
何とてのわろのどるせ森ね又お病でもかこつ

Red seal impression















小三行 やま  
 ちん と  
 金五希 と  
 東



うせとろろり 合点して。まをりのうちを幸地してあひ  
 まろてそとくごまき。りそのうちがれをぬくとま  
 さんのむおゆるゆる。男つあふよの処をそとら  
 爺がそとくして。縁付てをせませう。さうまのわらわ  
 の男も藤つき。あちの人のまごんぬづまをとるま  
 及む。せめてはうらぐ礼心。掌承あうくをせふい  
 うらふを と のひきまぬまだづめのよのふりや  
 ねど。うらそが男の身り あ せ。うら あ ぬんと あ 木のひ



しとせつるがらわきふ。今日<sup>けふ</sup>行<sup>り</sup>てしあまふ。明日<sup>あした</sup>行<sup>り</sup>ての  
ふりと。一目<sup>ひとみ</sup>くくと見<sup>み</sup>合<sup>あ</sup>せても。どふでのひ出<sup>で</sup>さねが果<sup>は</sup>  
しつらねば。公<sup>こう</sup>を鬼<sup>おに</sup>ふしてつぎく。あつた。まごめくろ  
らうが。是<sup>こゝ</sup>も才<sup>さい</sup>のしあ。うき世<sup>よ</sup>の美<sup>み</sup>理<sup>り</sup>の詮<sup>せん</sup>めくるさ  
老<sup>おきな</sup>の才<sup>さい</sup>ふ後<sup>ご</sup>生<sup>せい</sup>ハ成<sup>なり</sup>る。強<sup>えん</sup>切<sup>き</sup>りふ来<sup>き</sup>と罪<sup>つみ</sup>つくり  
ころが物<sup>もの</sup>のせらるるまも。まのいもやうしてつぎはまのよ  
とのつとくと承<sup>あきら</sup>知<sup>ち</sup>る。くふあをとりふぐくもぬい  
らるるまもせふらつらつと。くるこの才<sup>さい</sup>ふも怪<sup>け</sup>我<sup>が</sup>の

ぬいよう。手<sup>て</sup>ぎのよくやうて。とどきまをト。つひつまへ。金<sup>かね</sup>五<sup>ご</sup>十<sup>じゅう</sup>  
との強<sup>えん</sup>切<sup>き</sup>つても。ころハ中<sup>ちゆう</sup>りむり孫<sup>まご</sup>娘<sup>むすめ</sup>のらる。この後<sup>ご</sup>るん  
ぞ不<sup>ふ</sup>自<sup>じ</sup>由<sup>ゆう</sup>あうだ。あつらむ。く。をさるるふ。るんらつと  
きうりつてよとま。しゆき。こるまんの才<sup>さい</sup>の煮<sup>に</sup>つくまご。や  
のつまも。ころが貢<sup>こう</sup>まふ。ぞわ。化<sup>くわ</sup>人<sup>にん</sup>と。化<sup>くわ</sup>將<sup>じやう</sup>が。むき。し。こ  
と系<sup>けい</sup>より。と。さあま。り。か。ぬ。し。さ。わ。る。せ。る。ま。ま。あ。ふ。と。か。  
のり。入<sup>い</sup>ま。も。せ。だ。あ。う。り。外<sup>が</sup>へ。運<sup>うん</sup>指<sup>さし</sup>方<sup>かた</sup>。その。心<sup>こころ</sup>振<sup>び</sup>の。不<sup>ふ</sup>使<sup>し</sup>  
さを。あ。ひ。中<sup>ちゆう</sup>り。つ。は。結<sup>むす</sup>も。老<sup>おきな</sup>の。る。と。ふ。あ。さ。く。ま。し。う。

心よきくしてあなもどと名いひ争てくりくる。小さんと  
めとよりか聖の身を。夢てあこも名末くハ中を  
まんハ必定有り。り縁切る事と有りハ生を  
とて甲斐する身。別きてつゞき日を送らんより。死  
して苦患とまぬきんと。と小覚悟をきりありも。  
せまき女子のとろろ。嗚呼是れ非ゆる事なり。とそ  
めりーるどふ乳母のか乳ハ。うたあよりの一五十一を  
次のるあて。夢のうろ。小三の物のせらる事と。とそと

ありいぢりやどふ。かのきもとも不物のりも。えりさくをり  
のろーきと。と入て去のびはわさる。今ハあつくと入  
かたて。まろとたろりふをり出。小三のそえ。りありと。と  
ゆふるりまーとねへ。あの中りあママろつりく。かいそと  
か更合る事ろとハ。どふいふか。食豆がまわりあせんか  
ぶりまんのある事と。るげうち。あつくと。あつくと  
のてびらりまを。子まを。とる意中と。かゆる事と  
か祖父さるゆ。それ子切とろとハ。あつり。あつり。あつり



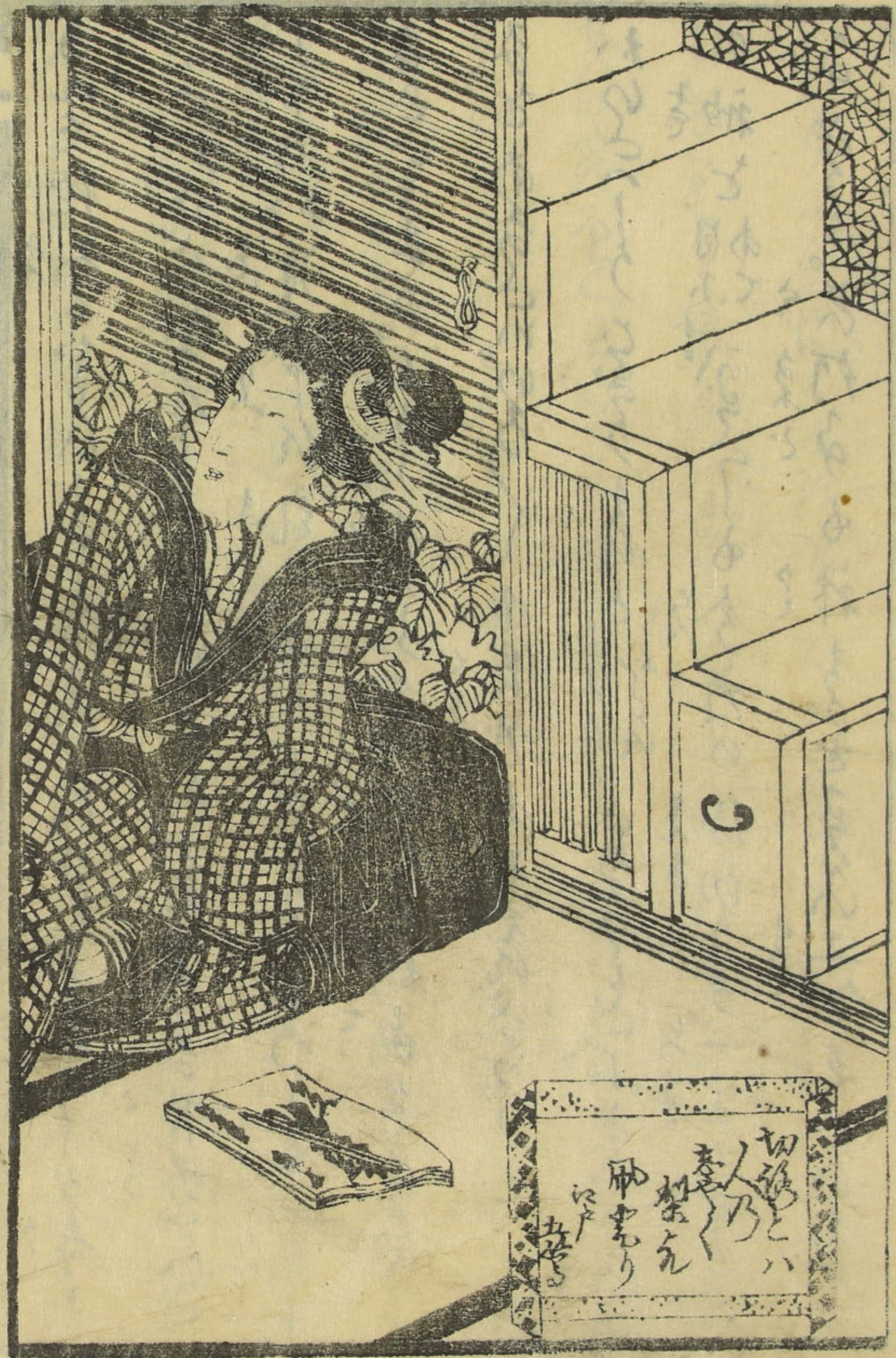
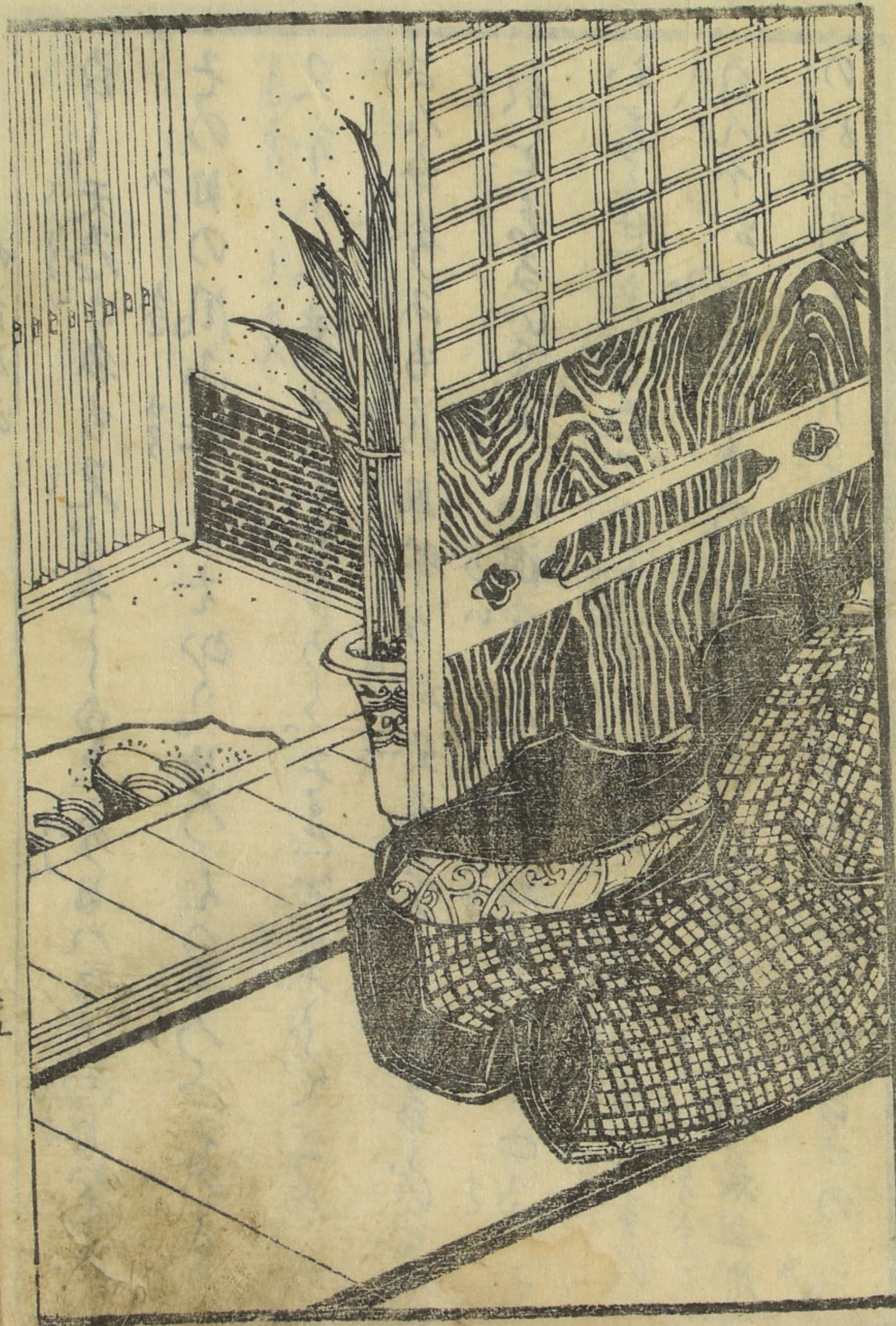
新編御成敗式目

とありふ。金切の世作と一くかきよト。以由きと乳母  
目ととまらりあぐ。一もてふあまこのかむの中を推せ  
其いえやど。こまの狗もたりさくやう。る程かぶ  
まのあるゆと。かかく一あまらとみ誂ひかむ。とて入今日  
日本縁がきまて。一生別まきりといふでいなり。不人の人  
目や浮世の美理と。か祖又まきの先刻のかとを。ま  
ら。の作幸抱でぶらうませう。又かぶらうまんのゆも  
あり。一方まてもあり。をアくとか川流るまらとも

あんで他人とまひませう。ゆりといまのうらうらうが。産  
一とか子ぶとぞんトまゆゆの。とて入どのやうな苦勞とい  
しくも。か育てやれれでいなりませう。あつともか業ト  
あさいませる。まう。是う。つら且那の。かまぐまきとら  
みとあまとい。いろく。由苦勞あそをなぶらうと。そと  
かひいへうとぶらうまんと。とあまとい。ふま人も誂  
の袖を相ふ。つら。も今度の縁切りが。一生の身の大  
る。は竹も。由林まら。るの工とま。このぢや

新編御成敗式目

上



切羽とハ  
春乃ハ  
柳花  
に戸

あり、天乃き夜も見ど不しゆき。今日ハなふ月ハあまこ  
 その日の風ハ任まるをわり。せつたつまるこそのとき  
 又和ふ思案もあがりうらうら。そきを案とてらんる  
 さんる。今ふもあ且那グハ出るまうても。あふびうら  
 敷とあまいで。今ハ祖又さんのか出るまうとるゆも。  
 かあせやちやアつるいよ。そまハ春らんてありまはぶ  
 るん不ハ祖又さんのかあので。か家のるや若且那  
 のかあといハレるうら。常ハあつてあるこの

づよき。かあひまりのよきこりゆのめハあんまり見るゆで  
 びさうまきうら。どふも念点グまありませぬトきて  
 小エのたると死まる覚悟をさうまドとびかうのー中  
 小ハアイタこい。今ハぬくで持病の寝グどうやう  
 痛もまるやうなトよこふる。乳母ハせんくこくくも。  
 次のる人まで行って。今ハ分のあつとびうを。後ハ由泪で  
 たらうどうし。小さんとあをー乳をゆをぬんと。よこふ  
 森ても眠らまば。只狗まきこのことろきて。とあせんか



やとさなぐみ。あひるやこーしりくく不隣まるあふ  
 てあものども。二三人ふて声ふる。浮世を命のりらく  
 ある。中ふ一人グゴウハさん。お入かろぐもふふおとづーあ  
 あぐりの女をええろ。「フウヌをく。二十三日のら女ご  
 つけ。あどぐどふーと冬でもよろーら。」「ボウアひひ夜。  
 アノ女ではる大強劫があつてア。」「ハテノまて途でも  
 ーこのう。」「どふーく。途でらあまーのくまど首さ  
 つて性生してア。」「そらうらうら。ヤしく。とんちめさやら

叩この。そのぬアマアどふいハ。泣ご一歩ね入アノ女との。帰  
 多門の女希どがの。まる処の息子ハ物てくちどぬりく。  
 ぶひよむとあう。合て来ハ女史ご史物ふるらうと。約  
 来としごゆね入。その息子があハ内あわアの。ゆ縁が  
 あるんどア。そまをるんでも沫くわくして。まご女房おね入  
 う。清玉ましくとどあう。大あでりよ。そとらうか  
 め人お癒。金まらうもゆいんご。親父の金をとひん  
 盗んで。おまをしてあまが長屋へ連れて来て。困つて













洒落亭

浪節用